

旧街道ウォーク342★古代東海道[30] [古代東海道 2008-09 その9]「国府台～常盤平」活動報告

【日 時】2009年1月24日（土）11:00～16:40 小雨のち晴

【コース】市川駅（大門通）→ 真間（弘法寺、国府神社）＜昼食＞→ 国府台（下総国府跡、里見公園）→ 下矢切 → 二十世紀ヶ丘 → 和名ヶ谷 → 稔台 → 金ヶ作 → 常盤平（12km）

【参加者】○梶川義実、磯田尚子、大竹亮、片桐拓朗、加藤栄子、児山文一、清水俊哉、恒川磯雄、長澤純一、林浩二、古里実、水谷晴子、山川紀子、（13名）（○は主催者）

【概況説明】

この日は寒中にふさわしく、非常に寒くかつ前半は小雨模様の天気でした。市川駅から大門通りに入り、手児奈霊神堂、弘法寺を経て、昼食休憩の後、国府神社へ。さらに下総国府推定地である国府台地区・里見公園から江戸川対岸の前回終着点および東京方面を遠望しました。古代東海道はここから北へ市川・松戸市境の台地上の1本道となり、二十世紀ヶ丘付近では消えているものの、その先、和名ヶ谷から金ヶ作にかけて残っている一直線の道筋を辿りました。行程が早めに進んだため、当初予定の八柱駅よりも1駅先の常盤平へ到達し、終了となりました。

【評価結果】

古代官道らしさについては、全体の半分以上が直線的なコースや市境であったためか、かなり高い評価となりました。魅力的な場所は、大門通り、手児奈霊神堂、弘法寺、里見公園など前半の国府台付近に集中していました。沿道風景については、高台からの眺めや緑の多さはあったものの、平均的な評価となりました。古道の史跡については、前半に史跡が集中してはいたものの全体としては多くなく、平均的な評価となりました。案内表示については、前半に歴史に関するものはあったものの古道に関するものが少なく、評価が低くなりました。まちづくりの方向については、下総国府跡の存在を活かした展開が多く提案されました。全体を通じての評価点は3.00で、ちょうど平均の評価となりました。



崖の緑に囲まれた弘法寺石段



国府台から矢切へ向かう推定古代東海道

【参加者の評価結果】

1◆全体を歩いた感想 評価点：3.00 内訳：ABBBBBBBC

A：自然地形と歴史資源が集積する市川国府台から、下総台地の尾根道をほぼ一直線に歩くことができた。国府台付近を除いて往時の遺構は少ないが、地形や直線性からは古道らしさが感じられた。緑豊かな郊外住宅地の散策は気持ちが良かった。

B：伝説や伝承、地形など古代の街道への想像をかき立てるものが多く充実していた。美野里から八柱までは平成16年に歩いたなま道に重なり、懐かしく思った。朝のうち思いがけなくも小雨に降られ、手足や唇がかじかむほど極めて寒い一日だったが、そんな中で蛸梅や菜の花、開花した紅白梅が春の足音を予感させた。

B：やはり下総国府跡の国府台付近に見所が多かった。里見公園の台地から江戸川越しに武蔵国を望む風景に今回の古代東海道ウォークの趣旨が凝縮されているように感じた。

B：旧下総国府周辺に多くの史跡があることを初めて実感しました。庚申塚も多く残され、びっくりです。

B：国府台では、真間手児奈伝説にまつわる史跡等を味わい、松の巨木や斜面の緑地が独特の風景を形作っているのを見た。しかし、二十世紀が丘や常磐平の住宅地では、庚申塔が大切にされていることと、周辺に山林があることを除いて、歴史や自然が活かされているようには思えなかった。

B：町境や市境の比較的まっすぐな道で、旧街道の雰囲気は十分あった。また、台地に上がったのがよくわかった。

B：古代官道の原則に沿った区間が少なかったが、直線性は感じられた。

C：前半はみどころが多かったが、後半はあまりなかった。

2◆特に魅力的だったところ

○大門通り：千葉街道から弘法寺へまっすぐ伸びる道の両側に個性的な商店や古代ゆかり史跡が並んでいた。

○大門通り：真間の継橋や美女手児奈の伝説など万葉集に詠まれた旧跡があり、突き当りの弘法寺の山門も見事。

○大門通り（弘法寺参道）：昔ながらの地元のお店が残っていて下町情緒がある。

○真間の継橋と手児奈霊神堂：真間手児奈の伝説が、地域の人たちから大切にされていることが伝わってくる。地域の史跡保存会と俳句協会による「てこな俳句」の投句箱の設置や優秀作品の掲示も好ましい。

○真間の継橋と手児奈霊神堂：一帯に万葉の歌の案内や石碑などがたくさんあって、この地が当時の文化の中心だったことを示していたのが魅力的だった。

○手児奈霊神堂付近：万葉集時代からの歴史を感じさせた。

○弘法寺：大門通の突き当たりの急な石段の登った上にある山門が風格を感じさせる。崖の緑も、境内からの見晴らしもすばらしい。

○弘法寺：石段を登ると広い立派な境内であった。

○台地上の弘法寺周辺

○弘法寺の伏姫桜と里見公園（国府台城跡）：馬琴の『南総里見八犬伝』に登場する里見家に縁のある土地であったことを知る。

○国府台城跡：武蔵国側の眺望が良かった。

○国府台城跡：里見公園として整備されており、東京タワーまで見える見晴らしもよかった。

○里見公園（国府台城址）：江戸川に面した台地から東京の市街地が一望できてすばらしい。東京側からは、江戸川沿いの崖の緑が美しい。

○里見公園：江戸川越しに武蔵国を望めるロケーションが素晴らしい。

○里見公園：ここから見た東京方面と江戸川の川面が印象的。

○里見公園からの眺め：遠くの山々まで見渡せ気持ちが良かった。

○里見公園（国府台城址）

○国府台で見た辻切りの蛇：わらで編んだ大きな蛇が、木の枝に巻き付けられていた。ぎょろ目で耳なんかつけてチャームングであった。



史跡が並ぶ商店街の市川・大門通り



里見公園（下総国府域）から見る東京市街

○愛宕神社の2本の大銀杏：銀杏が大木で参道がとても狭く見え、神社も遠く向こうに見えたのが印象的。
○愛宕神社参道入口の銀杏の樹：近接した2本の巨木が年輪と落ち着きを感じさせた。
○矢切付近の旧道：住宅地内の狭い道だが、市川・松戸市境であること、国府から八柱方面へ最短ルートであること、北総線の工事で道路遺構が発掘されたことなどから、古代道である可能性が高い。
○和名ヶ谷の旧道：道筋がまっすぐで古道らしさがあつた。
○常盤平団地：駅前の市街地住宅と商店街、一直線の並木道、整然と並ぶ住棟など、戦後日本の都市復興を象徴するモダニズム空間が、ほぼ当時のまま残っているのが貴重。

3◆古代官道らしさ 評価点：4.25 内訳：AAAAABBB

A：直達性があつた。特に、国府跡を出てすぐあたりは、江戸川に注ぐ谷戸が多かったにもかかわらず短絡性を保っていて、古代官道の特徴が残っているのではないかと思う。

A：国府台～二十世紀が丘、「スクランブル」交差点～スパの間は直線的であり、字界なので、古代官道らしさがあつた。

A：道筋が消えた二十世紀が丘付近以外は、直線的な道が続いていたと思う。下総国府はどのあたりか知りたい。

A：市川国府台付近は下総国府以来の歴史伝統を感じさせ、その後の道筋も下総台地上を、谷津を避けつつほぼ一直線に進む古道にふさわしい道筋であつた。

A：感じました。

B：確かに尾根道をほぼ直線的に進む道であつた。二十世紀が丘の住宅開発により、古道が失われてしまったことが惜まれる。

B：真間の継橋や心優しい美女手児奈の万葉集に詠まれた伝説をとどめる手児奈霊堂、国府神社、下総国府があつたと推定される和洋女子大や国府台公園（スポーツセンター）付近の高台、国府台から二十世紀が丘付近まで続く古代官道の特徴である市境（松戸市・市川市）の情緒ある真っ直ぐな道などに古代の街道への想像をかき立てられるものがあつた。

B：市川市と松戸市境の道が続く部分が古代官道であることに少し不思議な感じがしました。行政界ということ、やはり地域のための道路ではなく、中央集権国家のための道路であつたことを示しているということですね。



市川・松戸市境の推定古代東海道



新築マンションが並ぶ和名ヶ谷の推定古代東海道

4◆沿道風景の魅力 評価点：3.00 内訳：AABBBBBBCD

A：国府台周辺には、広範囲にわたって背の高い松の木があちこちに見られ、風格ある独特の景観を保っている。古い木が点的に残っているばかりなので、植林等を期待したい。また、国府台周辺には、傾斜地に照葉樹や落葉樹等の大木が残され、厚い緑地帯を形成している点も素晴らしい。

A：里見公園から見た東京方面と江戸川の川面が印象的。八坂神社では、かつてここで桜の花を見たが、今回も境内が印象的であつた。

B：真間の万葉集に詠まれた旧跡、里見公園から武蔵国を望む広大な眺め、愛宕神社参道入口の近接した2本の銀杏の巨木などがよかった。

B：弘法寺の斜面林や見里公園から江戸川越しの東京の市街地を望む風景など見どころは多かった。

B：国府台の崖線の木々は見事であった。

B：国府台の崖地は緑が美しく、里見公園から江戸川を挟んで東京の市街地が一望にできたのはすばしかった。矢切付近の住宅地も落ち着いた雰囲気だった。二十世紀が丘から先は、典型的な緑豊かな郊外の住宅地となった。

B：ところどころ、巨木があったり、庚申塚があったり。

C：里見公園までの桜の道が良かった。公園は管理が行き届いていた。

D：残念ながら、沿道にはあまり見るべき風景はなかった。

5◆古道にふさわしい史跡 評価点：3.28 内訳：AABBBBD-

A：手児奈伝説の霊神堂、万葉集にも歌われた真間の継ぎ橋、里見と北条が戦った古戦場の里見公園など、下総国府跡付近は歴史を十分感じさせた。

A：十分あったと思います。

B：真間の継橋や美女手児奈の万葉集に詠まれた伝説をとどめる手児奈霊神堂、国府神社など見どころがあった。

B：下総国府ははっきりとはわからないが、地形的にはその雰囲気があった。庚申塔や道標もいくつか見られた。神社やお寺は前半に集中していた感じ。

B：国府台には多くの史跡が存在していたが、二十世紀が丘や常盤台の住宅地では歴史性はあまり感じられなかった。ただし、どんな場所でも、庚申塔が丁寧に保存されている。

B：市川国府台付近には、国府関係や真間の手児奈ゆかりの史跡が多かったが、その後はあまり見られなかった。道筋に沿って、青面金剛の文字塔がたくさんあり江戸時代の街道でもあったようだ。

ー：ところどころに庚申塔、青面金剛像があり、古道を感じさせた。



真間の手児奈霊神堂（大門通り）



古道沿いにいくつも見られる石塔

6◆古道や歴史の案内表示 評価点：2.78 内訳：ABBBBBBCC

A：真間の継橋の手動発電式の説明板がおもしろかった。

B：随所にあり、とくに大門通りは充実していた。しかし、中には文字が消えかかっているのもあった。書くときは、長く消えないようなものを工夫してもらいたい。

B：手児奈霊神堂一帯には、ある程度あった。

B：国府台には案内表示が豊富だったが、その他の地域では少なかった。

B：国府台付近には多かったが、北上するにつれて少なくなるように感じた。

B：市川国府台付近には多かったが、その後は少なかった。特に、古代東海道など街道に関するものはほとんど無かった。

B：古道の案内はほとんどなかった。歴史案内は少し見られた。

C：市川の真間地区には歴史に関する案内はあったものの、古道に関する表示は全くなかった。

C：市川駅周辺のみ、あったようですが、庚申塚毎にたててよいのでは？

7◆古道を活用したまちづくりの方向について

○市川国府台付近には古代から中世、近世、近代の歴史資源が重層的に存在しているので、歩いて散策するエリアになると面白い。その際には、史跡だけでなく、古街道や自然地形にも注目するといいたいだろう。

○市川は手児奈伝説をシンボルにしている。大門通りは万葉の香り高く、観光地の様相も呈していた。別の歩く会も来ており賑わっていた。国府台運動公園に国府の史跡を示すものが欲しい。

○市川は下総国府があったのだから、もう少し古道の繋がりを、まちづくりのハード、ソフトの両面でアピールしても良いように思う。

○市川、松戸を古道の観点から結び、一体化するような取り組みがあると面白いのではないかなと思う。

○市川の真間地区では、歴史の案内板が多かったが、まちづくりまでは展開されていないと思う。

○下総国府の周辺は何か作れるのではないかな。公園の整備に使うなど。

○地元によどのように認知されているか分からないが、説明板など立てたらよいと思う。

8◆その他、今回の企画や気づいた点などについて

○前々回は武蔵野台地上の道、前回は東京の下町低地を一直線の道路痕跡を通して抜け、江戸川に到達しました。今回は、下総台地上の道になりましたが、歩いてみると、武蔵野台地と下総台地は、東京低地を挟んで対峙する双子のような丘であることを実感できました。次回はいいよ、手賀沼のほとりにあったという茜津駅を探して目指す街道歩きです。未知の領域が楽しみです！（R. O）

○市川に見どころが多いことにびっくりしました。府中と同様に国府跡のまちにある歴史の力を感じました。（M. F）

○市川に万葉集の頃の歴史があったことを初めて知った。寒い一日であったが、寒さに負けずに、予定よりも多く歩けることもできて、大変良かった。（H. M）

○主催者に配っていただいた資料は、内容・量ともに充実していた。事前の周到な調査に感謝。（J. N）

○梶川さんがホームページを紹介されていたが（<http://www.st.rim.or.jp/~komatsu/simousa.html>）、下総国府と下総国分寺・国府尼寺についても訪れたいと思った。（S. I）

○いいよ千葉県に入り、古道の雰囲気が出てきました。4年前のなま道の一部が重なりましたが、逆方向に歩くと意外と記憶が曖昧だと思いました。（T. K）

○歩き出しがスロー過ぎた。計画が八柱までだったので、そこまで良かったのでは？（I. T）

◆主催者よりひとこと・・・

13人の方々にご参加いただき、ありがとうございました。これから常陸国府・石岡まで約1年の長丁場です。徐々に自然豊かな区間に入ります。一緒に古代官道を検証しましょう。（梶川義実）



真間の手児奈霊神堂にて



金ヶ作付近の推定古代東海道を行く